

## たねニュース

平成28年(2016年)3月1日発行(隔月1回1日発行)

- 冬枯れした新播草地の対処法について
- 平成27年産粗飼料の傾向
- アメリカ視察レポート
- 帯広通信 ユーザー紹介 フリーストール牛舎への砂ベッド導入の取組み
- 北見通信 ユーザー紹介 施設改善による周産期病対策の取組み



# 冬枯れした新播草地の 対処法について

牧草飼料作物研究グループ 谷津 英樹

## はじめに

北海道における牧草播種は、一般に8月中旬～下旬までに行うように薦められていますが、8月は2番草収穫時期と重なるため、自力更新の場合は牧草播種の時間を確保しにくいのが現状です。地域によって異なりますが、2番草収穫は9月まで続くことが多いため、実際の播種は2番草収穫後の9月中旬～下旬まで行われる場合やデントコーンを収穫した後、9月下旬～10月上旬に播種する事例も見受けられるようになりました。また、草地事業による更新についても夏の気象が安定しないこともあり、作業時間が確保できず、9月中旬頃まで播種しているのが現状と思われる。

一方、近年は気象が不安定なため、根雪の遅れによる凍害や融雪の遅れによる大粒菌核病の発生、冬期間における降雨やアイスシート害など年次や地域によって様々な形の冬枯れが散見されるようになりました。また、上述のとおり、牧草の播種の遅れがこのような冬枯れを助長している傾向があります。本稿では冬枯れした新播草地の対処法について事例を交えてご紹介します。

## <ケースその1> 甚大な冬枯れだが土壌が柔らかい場合

**写真1**は十勝の芽室町において平成25年9月下旬に播種した草地の翌春(平成26年4月13日)の状況です。この年は根雪が遅かったため、凍害により殆どのチモシーが枯死しました。

この草地の場合、火山灰土壌であったこともあり融雪後の土壌が柔らかかったため、ディスクハローなどによる土壌の攪拌は行わず、4月20日にグラスシーダー(ブリリオン)で追播を行いました。**写真2**は追播約1ヶ月後(5月28日)の状況です。通常の新播ほど発芽・定着は良くありませんでしたが、追播したチモ

シーが800～1000個体/m<sup>2</sup>程度定着していました。これは一般的に少ないとされる定着数ですが、追播の3ヶ月後(**写真3**:7月25日)には十分な大きさまで生育し、草地は支障ない程度まで回復しました。

この事例のように土壌が柔らかい場合は、ブリリオンやブロードキャスター(播種後は鎮圧が必要)で播種することが出来ますが、可否の判断基準は、「播種した牧草にしっかりと覆土出来ているか?」がポイントになります。覆土されていないと、発芽・定着不良の原因となり、干ばつの影響も受けやすくなります。



写真1. 新播草地の冬枯れ状況  
(平成26年4月13日撮影、芽室町)



写真2. ブリリオンによる追播後の発芽・定着状況  
※伸びているチモシーは冬枯れを免れた個体  
(平成26年5月28日撮影、芽室町)



写真3. 追播3か月後の状況  
(平成26年7月25日撮影、芽室町)

## <ケースその2> 甚大な冬枯れで土壌が硬い場合

融雪後の土壌が硬く、ケース1のように覆土が出来ない場合は、ディスクハロー等で土を攪拌してから播種する必要があります。しかし、作溝播種機（ブレドやハーバーマットのように入溝間隔が狭いほうが良い）があれば、写真4のように土壌を攪拌することなく、追播することができます。



写真4. 作溝播種機（ブレド）で追播した草地  
※5月10日に追播を実施  
(平成26年6月8日撮影、大樹町)

## <ケースその3> 部分的な冬枯れの場合

近年、北海道内では夏～秋のゲリラ豪雨によって水たまりができ裸地ができる場合や12月の降雨とアイスシートによって裸地ができる場合があり、追播を必要とする事例が増えてきました。写真5は別海町において平成25年夏に播種した草地の翌春の状況で、前年秋のゲリラ豪雨によって水たまりができ、裸地が発生しました。この事例では、翌春の5月10日にハーバーマ

ットで追播し、その後は写真6のとおり裸地が埋まりました。作溝播種機は放牧地への追播などで利用されることが多いと思いますが、このような手直しにも利用することも出来るため、JAや機械利用組合等で導入する価値があると考えています。



写真5. ハーバーマットによる追播後の状況  
※5月10日に追播を実施  
(平成26年5月29日撮影、別海町)



写真6. 定着状況 (平成26年8月18日撮影、別海町)

## <ケースその4> 春の時点で判断がつかない場合

個体数が少ないものの追播まで踏み切れない場合は、手を付けずに様子を見て、当年の2番草後もしくはフロストシーディングによる追播を検討しても良いと思います。1番草後の追播は既存草の再生が旺盛なうえに高温・干ばつの影響を受けるため避けたほうが無難です。

2番草収穫後、既存草が再生しないうちになるべく早く追播するのが、追播牧草を定着させるためのポイントです。近年は気象が安定しないため、2番草の収穫が遅れることが多く、2番草後の追播が難しい場合もあります。その際は、フロストシーディングによる追播を検討して下さい。